

- 令和元年度 - 「町長室」出前懇談会

町の課題を知り、みんなで解決策を考えよう

広報3月号でお知らせした「町長室」出前懇談会（2月14日～21日・9会場）では、参加者の皆さんから日頃感じている多くの素朴な疑問や提言が出されました。

今回は、その一部と、前月号の【公共・行政サービスの維持向上】に続いて、今後大きな財政負担が見込まれる懸案課題の1つである【IP電話システムの老朽対策】について紹介します。

- 自己決定・自己責任 -

地方分権時代の

問われる自治体

“3つの力”

「自治力・財政力・行政力」

■ 町民から見た素朴な疑問と提言（一部紹介）

財政状況

- 地方交付税の縮減が続き、住民サービスが低下になるのでは。
- 農地の賃貸料は、町税収入に反映されているか。
- 税金、使用料等の滞納回収強化により歳入増を。

岬の湯しゃこたんの民営化

- 従業員数が他の温泉施設と比べて多すぎるのでは。
- 民間に移すことばかりではなく、施設を活用していく方法はないのか。
- 地元でしか食べられないものがあれば人は来る。
- お金がかかるが、宿泊できるようにするしかない。
- なぜ10月に消費税分の入館料を上げなかったのか。
- 赤字でも診療所のようにやっていかなければならない施設もある。

ごみ処理対策

- ごみ処理対策費の収支はどうなっているか。
- 消費税が上がったのだから、「ごみ袋の料金」も上げていいと思う。
- 「雑紙」などの紙類もリサイクル回収すべきでは。
- 粗大ごみは、収集後に資源化しているのか。

役場庁舎老朽化対策

- 庁舎は建替えなければいけないのか。
- 岬の湯や文化センターを役場庁舎にしたらどうか。

火葬場老朽化対策

- 建替えとなると町の負担が大変。町民にも負担がかかってくる。
- 近隣町村の火葬場を利用するなど、お金がかからないような方法はないのか。
- 町内で葬儀をするのに、他町まで行って火葬することは考えにくい。建物が古くても修繕してでも廃止できない施設。

移住・定住対策等

- 後継者対策を考えていかないと町の税収は増えない。人口を増やす努力をするべき。
- 人口減少の中で、様々な事情で条件に合う住宅がなく、他町から通っている人もいる。特例で町営住宅に入居させることはできないのか。
- 新規就農者など若い担い手が増えてほしい。受入体制を整備して情報発信してほしい。

その他

- IP告知放送案内文の改善と工夫が必要でないか。
- 積丹町の「2024年問題」が心配だ。
- マグロの漁獲規制の緩和を。
- 「学校統合」をどう考えるか。

※この他に町民の皆さんからいただいた多数の貴重なご意見は今後の町行政に役立てていきます。

IP電話システムの老朽対策

■「光 情報通信施設運営費用」と「町民の負担」の状況は？

<収入 (H 30) >

(単位：千円)

項目	金額	備考
IP電話	—	
地上デジタル放送使用料	6,687	町民負担金1世帯月額500円 (年額6,000円)
施設貸付収入	9,740	インターネット回線業者への 光ケーブル貸付収入等
合計	16,427	

<支出 (H 30) >

(単位：千円)

項目	金額	備考
修繕費	1,113	施設の修理費
その他運営費	17,029	設備移設工事費、保守契約料、 電気料、電柱共架料など
合計	18,142	

・収入 1,642万7千円－支出 1,814万2千円
= ▲171万5千円

※「積丹町地域情報通信基盤施設整備基金」を取崩して賄われています。

※次年度以降の修繕費等の財源不足に備えるため、毎年度「地上デジタル放送使用料収入額」と同額程度を一般財源で積立している基金。

■今、町が検討していることは？

【現状と課題】

平成22年度新設から10年が経過し、故障の増加やIP電話機器の更新時期が迫り、その対策が急がれています。また、更新や改修に伴う国・道の補助制度がないのが現状です。

【検討(案)】

町の財政負担の軽減のため、良質な借金(償還時に交付税支援がある地方債)の活用や、スマートフォンへの配信も可能で、安定した継続運用ができる新しい「IP電話器」の導入を検討しています。



▲先生と児童がIP電話で会話

美国小3・4年生担任の齊藤恵美子教諭は、「声だけではなく、子どもたちの元気な顔を見ることができて嬉しいし、何よりも安心する。」とIP電話の利便性を実感していました。

どの相談や保護者との情報交換にも役立てています。また、美国小学校では、IP電話を活用して健康状態や家庭学習の確認のほかに、日中の過ごし方など普段の生活の様子聞き取り、不安なこと困っていることはないかなど、

野塚・日司・余別小学校では、各児童宅への家庭訪問により、学習プリントの配付や健康状態の確認のほか、IP電話でも児童の様子を確認しました。美国小・中学校では、3月

5日、職員室の各学年担任の机上(美小6台・美中3台)にIP電話器を増設し、郵送で配付した学習プリントの進捗状況の指導など、担任が直接IP電話で学習支援をしています。

”コロナ“緊急事態にIP電話を活用！
IP画像を使って学習支援